

取扱説明書 保証書付き
 その他の体温及び関連機器 (皮膚赤外線体温計)
サーモフォーカス® プロ 額
 医療機器承認番号: 22100BZX00092000

このたびは、サーモフォーカス®プロをお買い上げいただきありがとうございました。

安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にはこの取扱説明書を必ずお読みください。

- 本書は、いつもお手元においてご使用ください。
- 本書は保証書を兼ねています。紛失しないように保管してください。

体温計のご確認

ご使用になる前に、下記のもの揃っているか確認してください。

- サーモフォーカス®プロ本体
- 単4アルカリ乾電池 4本
- 取扱説明書(保証書)
- 添付文書



使い方

本機器には三つのボタンがあります。フェースボタン は、額の温度から舌下温(又は直腸温又は腋窩温(わきの下の温度))を予測する時に使用します。ホームボタン は、体の皮膚表面の温度を測定する時に使用します。メモリーボタン は、自動的に保存された測定値を表示します。いずれかのボタンを押すと電源が入ります。

迅速校正機能 (MQCS)

本機器には迅速校正機能(MQCS)が導入されています。この機能は、本機器を周辺温度の異なる場所に移動した時(例: 屋外から屋内へ、部屋から部屋へ移動した時)、直ぐに使用できるように機器を校正する機能です。操作方法は次の通りです。(フェースボタンにのみ適用)

使い方

1) 電源を入れ、フェースボタン とホームボタン を同時に押す。CALの文字が表示される。



2) 保護キャップを開ける。

3) 10秒以内に体温計を室内の壁又は室内の物体に向け、ホームボタン を押しながら焦点を合わせ手を離す。*



4) 液晶ディスプレイに下図のように現在の室温が表示され、体温計は直ぐ使用できる状態となる。体温測定をするにはフェースボタン使い方(3)から初めて下さい。

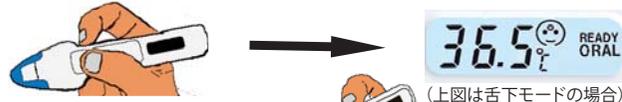


*: 室内の壁や物体は、室温と同じ温度であることを前提にしています。従って、外気と接触している壁・窓・物体は使用しないで下さい。

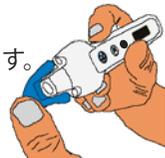
注意: 連続使用中や移動した時に、液晶に「分・秒」の表示でカウントダウンが始まる場合があります。これは、本体を安定化するまでの時間を自動的に表示しています(AQCS)。この場合は、上記のMQCS操作方法で校正すれば直ぐに使用できます。また、続けて30分以上使用するときは30分毎にMQCSで校正して使用してください。

フェースボタンの使い方

(1) キャップを閉じたままフェースボタンを1回短く押します。ディスプレイには、数字の右横に「READY」と表示されます。



(2) 次にキャップを開けます。



(3) 再度フェースボタンを押すと照準ライトが点灯するので、ボタンを押したまま額の中央で赤い光線が1点になるように距離を調整し、ボタンから指を離します。



(4) すると、照準ライトが点滅し、ディスプレイに体温が表示されます。



(5) 続けて測定する時は、キャップを開けたままフェースボタンを押し距離を調節し測定してください。もし室温表示に戻っている場合には、キャップを閉じ、(1)から操作をやり直して下さい。

(6) 測定終了後は必ずキャップを開けてください。

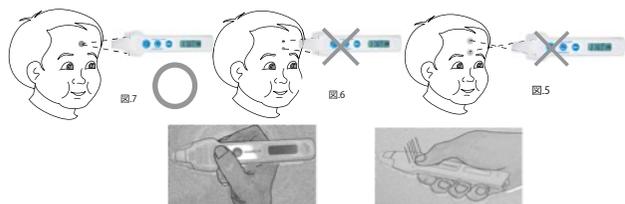
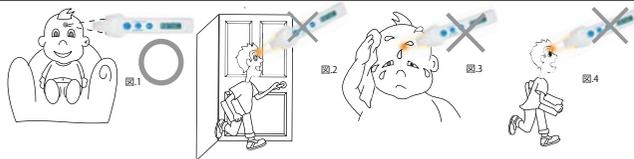
額から測定した正常体温は、35°Cから37.5°Cです。成人の場合は35°C以下のこともあります。

額で測定できないとき

何らかの理由で額で測定できない場合(汗をかいている時、化粧をしている時など)、近似値を首の部分で測定する方法があります。この方法では近似値しか得られませんので注意してください。



耳下約2.5cmの首の表面で測定



ホームボタンの使い方

(1) キャップを閉じたままホームボタンを1回短く押します。ディスプレイには、数字の右横に「READY」と表示されます。



(2) 次にキャップを開けます。



(3) 再度ホームボタンを押すと照準ライトが点灯するので、ボタンを押したまま皮膚などの測定対象物の表面で赤い光線が1点になるように距離を調整し、ボタンから指を離します。



(4) すると、照準ライトが点滅し、ディスプレイに対象物の表面温度が表示されます。



(5) 続けて測定する時は、キャップを開けたままホームボタンを押し距離を調節し測定して下さい。

もし室温表示に戻っている場合には、キャップを閉じ、(1)から操作をやり直して下さい。

(6). 測定終了後は必ずキャップを開けてください。

正しく測定するための留意点

正しく測定するために、次の留意点にしたがってご使用ください。測定を開始する前に、迅速校正機能(MQCS)で校正してから使用してください(操作は「使い方」の迅速校正機能参照)。また、ディスプレイ表示が周辺温度(室温)と家のマークが点滅している状態(スタンバイ状態)であることを確認してください。本品は正しく使用すれば5万回の測定に耐えられます。

- 本品は他の体温計と同じ使用環境でお使いください(図1)。
- 本品は通気がなく、室温の一定な16~40°Cの部屋でお使いください。
- 患者さんが直前まで風の当たるところや、検温の場所と著しく温度の異なる場所にいた場合には、患者さんを検温の場所に20分~30分間 慣らしてから検温してください(図2)。
- 本品が検温の場所と温度の異なる環境に保管されていたり、使用されていた場合は、検温前にMQCSで校正してから使用してください(操作は「使い方」参照)。
- 額に汗をかいている場合は使用しないでください(図3)。
- 以下のような場合は、額の温度が安定するまで数分待ってから測定してください。
 - ・直前まで運動していた場合(図4)
 - ・換気の良い部屋、又は測定場所と著しく気温の異なる場所にいた場合
 - ・直前まで保冷スポンジ、または冷湿布を額に当てていた場合
 - ・直前まで帽子やスカーフを着用していた場合
 - ・入浴やシャワー、シャンプー、ヘア・ドライヤーの使用など額の温度に影響するよう行為をしていた場合
- 2個の照準ライトが焦点を結ばないときには正しく測定できません(図5、6)。照準ライトが1点になるところが正確な測定に適した距離となります(図7)。
- 本品は温度変化に敏感なので、体温計の頭部を長時間手で握ったり、白衣や胸のポケットに入れたりしないでください。また、30分以上継続して使用する際は、30分毎にMQCSで校正して使用してください。
- 本品を落としたり、たいたりして衝撃やショックを与えないで下さい。
- 強電磁場の周辺(携帯電話などの近く)で使用しないこと。
- 測定するときは、本体をペンや鉛筆を持つような指使いで持つようにして下さい。また、ボタンは親指で軽く押して下さい。爪は使わないでください(図8、9)。
- LED照準ライトは目に安全で害を与えません。

